学校法人 兵庫医科大学

広報

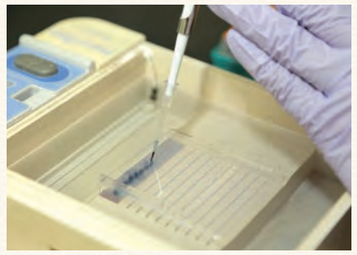
兵庫医科大学 兵庫医療大学

2016年10月号
vol. 236

特集 研究医を育てるために

研究医を育てるために

臨床研修の必修化や専門医制度の広がりによって、臨床医になって専門医や認定医を目指したいと希望する学生が増えています。その一方で問題になっているのが、将来の医学・医療の発展を支える“研究医”の不足。全国的に大学などにおける研究志望者が減少する中、兵庫医科大学では他の大学にはない大胆な制度で、研究医の養成をスタートさせています。



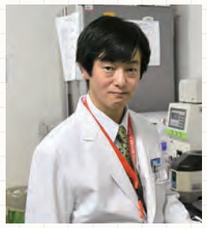
研究医とは

研究医とは、大学や研究機関で基礎医学や臨床医学の研究に従事する医師です。実験や臨床研究を繰り返してデータを収集し、病気が発症するメカニズムを解明して原因を突き止めたり、新たな治療法を開発したりするのが研究医の仕事。学会での発表や学術誌への投稿などが認められれば世界的にも大きな成果を残すことができます。研究医は、未来の医学を支える重要な役割を担っており、非常に注目されています。

- **臨床医学の研究医**
  新しい医療技術の開発・標準化をしつつ、患者さんの診療を行う
- **基礎医学の研究医**
  実験を繰り返す中で、病気の原因や新しい治療方法を発見・確立し、医学の基礎を支える

研究医の仕事

兵庫医科大学　環境予防医学
丸茂 幹雄 講師



丸茂講師の歩み

兵庫医科大学卒業
↓
兵庫医科大学 第二内科（当時）へ入局
↓
兵庫医科大学大学院へ進学
↓
山形大学に勤務　研究のみに2年間費やす
↓
兵庫医科大学 血栓止血老年病科（当時）
以降、研究と臨床を両立
↓
現在 環境予防医学講座にて研究する傍ら、
血液内科の非常勤医師として働く

第二内科には血液、血栓、糖尿、免疫、肝臓などさまざまなグループがあり、幅広く多くのことに取り組めることを魅力に感じ、入局を決めました。血液の病気はイメージがしにくいので、学生時代はどちらかというと苦手な分野。しかし、血液疾患の治療は内科のみで行うので、その分やりがいがある分野だと感じ、血液を専門に扱うことに決めました。

ターニングポイント！
第二内科の主な対象疾患は白血病など。若い患者さんが多いのが印象的でした。亡くなる方も多かったので、「患者さんとじっくり向き合って治療することも大事だけれど、医学の視点から研究を行うことで、より多くの人を救いたい」と考え、大学院へ進学して研究医の道を志すことにしました。

基礎研究は片手間にできる仕事ではありませんが、医師が研究を行うことに意味があると感じています。臨床の中で問題・課題を発見し、その解決のために研究できるからです。現在、臨床に携わっている時間は週に1.5～2日ほどと短いですが、臨床で得られることは非常に大きいです。

研究テーマ

専門分野は、血液の「血小板」です。血小板細胞の表面にあるカルシウムチャネルの生理学的な機能を解明する研究を行っています。現在所属している環境予防医学講座は、生活習慣病に関連する環境要因を大きな研究テーマとして掲げており、私は動脈硬化に関する研究を血小板機能側からアプローチしています。

また、5年前から兵庫県篠山市と共同で疫学調査を行っています。動脈硬化性疾患の早期予防につなげるため、地域特性や食事の取り方と生活習慣病との関連などを調査しています。

今後も血小板の生理学特性を解明していきたいと考えていますし、食品に含まれる物質で疾病予防効果があるものなどを調査することも視野に入れています。

やりがいを感じるとき

研究の醍醐味は、研究を一生懸命やった者にしか分からないかもしれません。頂上に到達した者だけが達成感を感じる登山みたいなものです。世界中の誰もやっていない、自分だけの研究を行っているという事実は、その大小に関わらず、やりがいを感じるものです。

仮説に基づき研究を行いますが、しばしば自分が立てた仮説と違う結果が出るときも。予測していない結果から違う方向に発展していくのも楽しいです。そういう楽しみがあるから研究を続けられるのでしょうね。

メッセージ

臨床医を目指す医学部生や研修医、臨床医の若手の先生に伝えたいのは、臨床を行う上でも“研究マインド”を持つことが大事だということ。医療は科学ですから、科学に基づく根拠が無ければ診療・治療が行えません。そして、新知見がでればその治療は変わるかもしれないのです。

たとえ研究医の道を選ばなかったとしても、研究に関わった時間はどこかでプラスになると思います。大学在学中でも大学院でもどのタイミングでも良いので、医療を支える重要な科学研究に、長い医師人生のうちのどこかで触れてほしいと願っています。

リサーチマインドを持った医師を育てる

兵庫医科大学　研究医コース

兵庫医科大学では、医学部在学中に研究の面白さに触れて一定の素養を身につけることができるよう「研究医コース」を設置。2016年より3年次生と4年次生合わせて10人でスタートしています。

<概要>

3年次

「研究の基礎を身につける研究医プレコース」

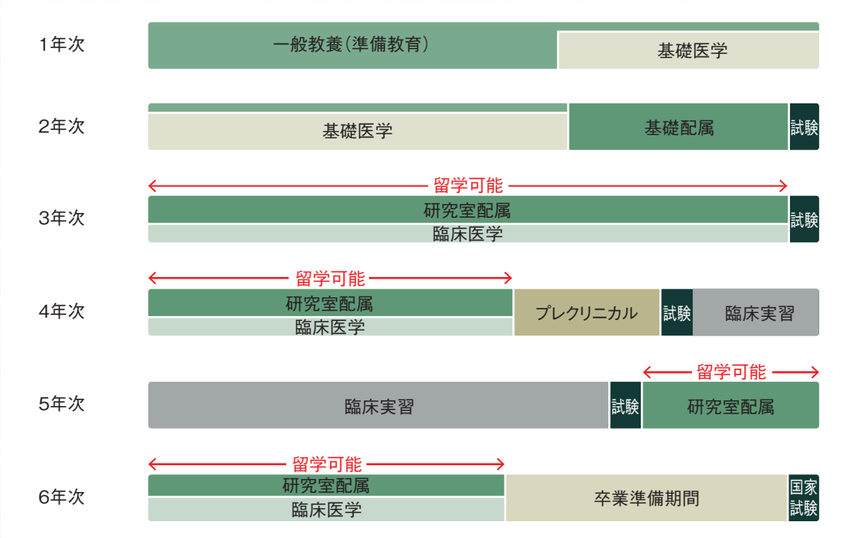
多数の教室・施設をローテーションして、研究医としての研究の土台固めを行います。

↓

4年次～6年次

「テーマを持って研究する研究医専門コース」

特定の教室・施設を選択し、専門とするテーマをもって本格的な研究を行います。



<学習の特長>

○3年次より履修・試験を義務づける科目を限定※し、研究室に配属

※医師としての素養ならびに問題解決能力を涵養する科目、国際性を高める科目、総合進級試験

○医学教育センターでの学習支援

○学習研究支援グループが、研究指導のほか、学習の悩み、進路相談などをサポート

○指定以外の講義をビデオ録画し、好きな時間に視聴することが可能

○兵庫医科大学の学術交流協定校を中心に、短期の留学が可能。
　海外での研修費の50%を本学が負担予定

講義のビデオは、自身のスケジュールに合わせていつでも視聴することができます

<奨学金>

希望者には年間150万円（4年間最大600万円・上限4人）を貸与。兵庫医科大学大学院に進学し、学位取得等の一定の条件を満たした場合は、返済を免除します。

<卒業後の進路>

希望により、兵庫医科大学大学院修了後は特任助教として採用し、研究をサポートすることも可能です。

<充実した学生生活>

多くの科目は、講義出席や試験を義務づけていないため、日中から研究を学べます。放課後は、クラブ活動やボランティアなど、自由な時間です。録画講義などのビデオを利用して、計画的な学習を行い、充実した日々を送ることができます。

<他大学との連携>

神戸大学医学部、関西医科大学、関西学院大学、兵庫医療大学と連携し、各大学の特徴・強みを活かして共通講義、技術講習、研究指導の各分野にて交流を行います。また、夏には連携大学である関西医科大学のコンソーシアム合宿に参加し、関西医科大学の連携大学である大阪医科大学、奈良県立医科大学の学生、教員とともに学び、交流を広げています。

学年ごとに研究医コース専用の自習室を用意しています

3年次に、最大3つの研究室をローテーションして所属先を決められます

他大学の学生と合宿を行うなどしながら、コミュニケーションを図っています

● 研究医コース学生の声

■ 3年次　石川 佳奈 さん

研究医コースを希望したのは、2年次の「基礎系講座配属」で1カ月間研究に従事し、学生の間にもっと研究に触れておきたいと思ったことがきっかけです。他の同級生とは異なることをするので不安もありましたが、とても時間に融通が利くので、受けたい授業はできるだけ受けて、その合間に研究室へ行くなど、自分のペースで楽しく過ごせています。

今まで関わりのなかった人たちや環境の中で学生生活を送りながら、研究活動や研究者というものを身近に感じることで、いろいろな見方ができるようになればと思っています。

■ 4年次　山本 将大 さん

限られた学生生活を有意義に使いたくて、研究医コースを希望しました。おかげで、自ら能動的に勉強に励むことができています。時間の使い方についても考えることが増えました。今後、社会に出ても、貴重な時間を有意義に使えるように工夫していきたいです。

今年度がコースの実施初年度ということもあり、まだまだ不安もありますが、先生方は自分のことのように私たちのことを考えて応援・支援してくださるので、感謝の気持ちでいっぱいです。ぜひ研究医コースを希望する人が増えてほしいと思います。

担当教員からのメッセージ

研究とは、大海原を行くヨットのようなもの

兵庫医科大学 副学長(学部教育・内部質保証 担当)／医学教育センター長 鈴木 敬一郎

10年以上前から基礎や臨床医学の研究者の減少が問題になっており、近年多くの大学が研究医を養成するコースを設置しています。その中で、兵庫医科大学では、学生の負担をなるべく少なくし、研究の面白さを実感しながらしっかりとしたリサーチマインドを育むことのできる独自の研究医コースをスタートさせました。

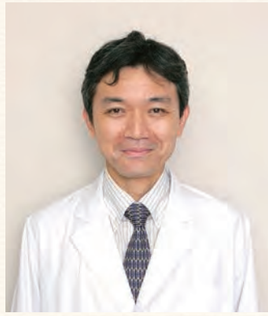
研究医の魅力は、寝る前に思いついたことを、次の日に試すことができるということ。ちょっとした条件を変えてみたり、自分の大胆な発想を自由に試すことができます。例えるなら、臨床は鉄道のようなもので、敷かれた線路の上をダイヤ通り走らせなくてはなりませんが、研究は大海原を行くヨットのようなもの。風まかせ・波まかせみたいなところもあるけれど、行きたいと思った方向に自ら舵を切ることができる。私は、その自由さが研究の面白さだと思います。

私自身は5年間の臨床医の経験を経て30歳を過ぎてから基礎医学の研究者になりましたが、少し遅いスタートだったと思っています。もし、将来少しでも研究に携わりたいという思いがあるなら、大学在学中に基本的な研究の考え方や基礎的な技術を身につけられる研究医コースで学ぶことは、大きなプラスになるはずです。

将来の医療を変えるような素晴らしい研究者になる夢を、ぜひ私たちとともに見てほしいと思います。

精一杯サポートするので、安心して飛び込んでほしい

学生研究支援グループ／解剖学 主任教授　八木 秀司



「時間を自由に使えるので、研究に専念できる」という点が、兵庫医科大学の研究医コースの一番の魅力だと思います。研究は、待ち時間があったり、一日かけてやったり、その日その日によって時間の使い方が違います。きちんと予定を立てて自主的に取り組むことは、社会に出てからも必要なことですので、将来のための良い訓練にもなるでしょう。

学生研究支援グループでは、研究医コースの学生さんのあらゆる不安や悩みを解決するための相談窓口のようなものです。研究はもちろん、学習や進路などについて、一人ひとりの話を聞いてしっかりとサポートします。

このコースは今年が初年度ですが、今年の学生さんたちは、相互に助けあったり相談しあったりしながら問題を解決しようという自主性が高く、雰囲気も非常に良いと感じています。科学というものに興味があって医学部に入ってきた人であれば、このような自分の思い通りにできる環境で、ぜひ研究に目を向けその面白さを感じてほしいと思います。

私たち学生研究支援グループが精一杯サポートします。安心して飛び込んできてください。

研究医コースについての詳細は、兵庫医科大学ホームページに掲載しています
http://www.hyo-med.ac.jp/faculty/curriculum/resident.html

学校法人 兵庫医科大学
広報
vol.236/2016年10月号

建学の精神

社会の福祉への奉仕
人間への深い愛
人間への幅の広い科学的理解

INDEX　－ 目次 －

特集 …1
研究医を育てるために

Campus News …5
・スポーツを通じた新人看護師研修を実施
・看護師を目指す高校生20人が「ふれあい看護体験」に参加
・ささやま老人保健施設 通所リハビリの土曜・祝日運営を開始
・日本酒の「味わい表現」を確立する共同研究を開始
・解剖学 藤谷准教授と病原微生物学 石戸主任教授がそれぞれ世界初となる研究発表を行いました
・篠山市消防本部が、解体予定の旧篠山病院を使って災害救助訓練を実施
・「第7回 学校法人兵庫医科大学 リハビリテーション関連施設合同セミナー」を開催
・兵庫医療大学「オープンキャンパス2016」を開催しました
・兵庫医科大学「オープンキャンパス2016」を実施しました
・神戸発の医療用ウエア「神戸スクラブ」を共同開発
・人型ロボットPepperの「ササローくん」がスタッフの仲間入り
・「納涼祭」を初めて日中に実施
・「なるほど医学体験！ HANSHIN健康メッセ」を大阪・梅田で開催！
・病院病理部の切出し室と検体処理室を改装
・関西公立私立医科大学・医学部連合＆WHO健康開発総合研究センターとの共同研究ワーキンググループを発足
・学校法人兵庫医科大学中医薬孔子学院訪問団 北京中医薬大学60周年記念事業に出席
・ネイティブスピーカーを患者役にした「医療英会話研修」を実施

卒業生の今 …13
Physician Scientist（研究医）として肝線維症の創薬に挑む
石 亦宏さん（平成6年3月卒業）

The Professional ザ・プロフェッショナル …15
先を見つめ、人と医療に貢献する研究を ～独自の視点と基準で超高齢社会に挑む～
兵庫医療大学 リハビリテーション学部 理学療法学科　講師 宮本 俊朗

チームの力 …16
兵庫医科大学病院 ICT（感染対策チーム）

知ってる？学校法人兵庫医科大学 …16
大学のシンボルマークに込められた意味とは?

気になる授業 …17
「チーム医療演習」／「医療チーム実習」

学生の部活動紹介／看護学部生がアデレード大学へ留学 …19
表彰および受賞紹介 …21
理事・評議員の異動／二大学連携共同研究支援助成事業の採択状況／研究助成金等の交付状況 …23
兵医・萌えの会／新教育研究棟建設事業基金 状況報告 …24
主な行事予定（11月～1月） …25

Campus News

大学病院 スポーツを通じた新人看護師研修を実施

平成28年7月7日、新人看護師を対象とした研修を行いました。これは、気持ちをリフレッシュすることはもちろん、社会人の基礎力を向上することを目的として、当院で初めて開催した研修です。当日行ったのは、「ドッジボール」「しっぽ取り」「大縄跳び」など。競技中に作戦タイムを設けることで、楽しみながらもチームワークや主体性の大切さを学ぶことができる貴重な機会になりました。

チームワークで目標回数に挑む（大縄跳び）

チームプレイで相手を追い込む（しっぽ取り）

大学病院 看護師を目指す高校生20人が「ふれあい看護体験」に参加

平成28年7月26日、兵庫医科大学病院にて「ふれあい看護体験」イベントを開催しました。これは、看護の日にちなんだ記念行事の一環で、看護師を目指す高校生を対象に、看護師の仕事を一日体験してもらうもの。今年も定員を上回る応募があり、抽選によって選ばれた20人が参加しました。

参加者は各病棟に分かれて先輩看護師からマンツーマンで看護の仕事について学び、ベッドメイキングや患者さんとのコミュニケーションにも取り組みました。体験後の座談会では、「看護師の仕事がより理解できてよかった」「看護師を目指すうえでのモチベーションになった」などの感想が発表されました。

先輩看護師とマンツーマンで

患者さんとコミュニケーション

医科大 解剖学 藤谷准教授と病原微生物学 石戸主任教授がそれぞれ世界初となる研究発表を行いました

解剖学講座 神経科学部門
藤谷昌司 准教授

解剖学講座 神経科学部門の藤谷昌司 准教授は、大阪大学在籍中に大阪大学 大学院 医学系研究科 解剖学講座（分子神経科学）の山下俊英教授らのグループで行っていた「神経発達障害の染色体重複による発症機序」に関する研究にて、16番染色体の16p13.11微小重複によっておこる神経発達障害群の原因分子「microRNA-484（miR-484）」を世界で初めて発見しました。今回の研究により、神経発達障害の分子機序のさらなる解明と、新たな治療法創出へと発展することが期待されます。なお、本研究成果は7月5日16時（日本時間）、米国科学誌「Molecular Psychiatry」に公開されました。

病原微生物学講座 石戸聡 主任教授

また、病原微生物学講座の石戸聡 主任教授は、メルボルン大学 Jose A. Villadangos氏、ミュンヘン大学Ludger Klein氏のグループとの共同研究により、「MARCH-VIIIとCD83によるT細胞の選択の調節メカニズム」を世界で初めて明らかにしました。今回の研究により、免疫不全やリウマチなど、さまざまな免疫疾患の原因究明、さらに新たな治療法・創薬の開発への進展が期待されます。なお、本研究成果は米国科学雑誌「The Journal of Experimental Medicine」（8月22日号）に掲載されました。

それぞれの研究内容の詳細はホームページをご覧ください。

藤谷 准教授　http://www.hyo-med.ac.jp/news/20160705.html

石戸 主任教授　http://www.hyo-med.ac.jp/news/20160810_1.html

ささやま ささやま老人保健施設 通所リハビリの土曜・祝日運営を開始

平成28年7月18日より、ささやま老人保健施設 通所リハビリにおいて土曜日と祝日の運営を開始しました。かねてより、利用者やその家族から、「祝日に運営してほしい」との声が多く寄せられていたため、その要望に応える形で実現したものです。

運営開始後の祝日には、平日の利用者数と同数の方が利用されました。土曜日はまだ利用者数が少ないものの、大規模通所リハビリテーションとは違って少人数でゆっくりと過ごすことができ、職員も利用者の皆さんとコミュニケーションをより多く取れることを喜んでいました。

また、土曜日と祝日には、みんなで体操を行うなど、いつもより長い時間レクリエーションを楽しんでもらっています。

土曜・祝日を担当するスタッフ

医療大 日本酒の「味わい表現」を確立する共同研究を開始

兵庫医療大学は、国内だけでなく世界的な日本酒の普及に貢献することを目指して「味わい表現」（言葉や色）を確立すべく、平成28年7月から、日本酒「小鼓」ブランドで知られる（株）西山酒造場（兵庫県丹波市）との共同研究を開始しました。

本研究では、試飲による意味微分法調査と色イメージ調査を用い、日本酒が本来持つ奥深く複雑な味わいの情報を形容詞対尺度上に位置づけ、また色彩イメージとして表現する方法論を確立する予定です。

8月10日に行われた試飲会
（日本酒の「形容詞対尺度」評価実験）の様子

ささやま 篠山市消防本部が解体予定の旧篠山病院を使って災害救助訓練を実施

平成28年8月9日から12日にかけて、篠山市消防本部が、解体予定の旧篠山病院の建物を使用して災害救助訓練を行いました。

火災や震災により建物内に閉じ込められた市民の救出等を想定し、ブリーチング訓練（建物への進入路、救出路を確保するため、コンクリート壁や床を破壊する訓練）や階上へのはしごを使用した救出作業などを実施。消防隊の方々からは、本格的な訓練が実施できる貴重な機会の提供に対し非常に感謝され、解体が決まっている旧篠山病院にとっては、最後の地域貢献となりました。

屋内で救出訓練

コンクリート壁を破壊

学校法人 「第7回 学校法人兵庫医科大学 リハビリテーション関連施設合同セミナー」を開催

平成28年8月27日、兵庫医療大学オクタホールにて「第7回 学校法人兵庫医科大学 リハビリテーション関連施設合同セミナー」を開催しました。このセミナーでは、兵庫医科大学、ささやま医療センター、兵庫医療大学、学校法人兵庫医科大学連携病院の会などのリハビリテーション職者が一堂に会し、教育・研究・診療に係る取り組みについて情報を交換・共有します。今回は学生も含めて208人の参加がありました。

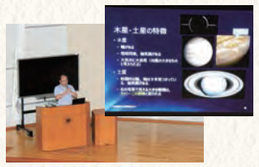
また、藤田保健衛生大学統括副学長の才藤栄一教授をお招きし、「リハビリテーション医学最前線― FHURが考えていること―」と題した特別講演を実施。一般講演では各施設のリハビリテーション職者が臨床・研究成果を報告しました。

各施設のリハビリテーション職者が講演

藤田保健衛生大学　才藤教授による特別講演

■7/8（金）

兵庫医療大学にて「全国同時七夕講演会」を開催し、加藤精一教授が「惑星のふしぎ」と題して講演を行いました。



■7/16（土）

兵庫医科大学病院にてピアニスト池田佳ず実さんのピアノ演奏と歌による「サマーコンサート」を開催しました。

■7/22（金）

兵庫医療大学の在学生と教職員が「防災訓練」に参加し、9/9（金）には篠山キャンパスでも同訓練を実施しました。

■7/22（金）

兵庫医科大学の4年次生が「トリアージ訓練」に参加し、医療者役と特殊メイクで外傷を模造した傷病者役に分かれて訓練を行いました。

Campus News

医療大 「オープンキャンパス2016」を開催しました

平成28年8月6日、7日、20日、21日に「オープンキャンパス2016」を開催し、4日間で高校生1,984人、同伴者1,068人とたくさんの方にご参加いただきました。

本学の概要・特徴や学部の特色などについて説明する「大学全体ガイダンス」では、会場のオクタホールが満員に。また、学部学科イベント会場では、学科ごとのガイダンスや体験実習、キャンパスツアーなどが盛況でした。

参加者からは「とても良い環境で勉強できることがわかった」「先生方や先輩にも優しい人が多くて、ますます魅力を感じた」という感想が寄せられました。

大学全体ガイダンス

薬学部 体験実習

看護学部 体験実習

理学療法学科 体験実習

作業療法学科 体験実習

特別イベント

8/6（土）チーム医療特別講義	8/20（土）クラブサークル紹介
8/7（日）入試対策講座　生物	8/21（日）入試対策講座　英語

医科大 「オープンキャンパス2016」を実施しました

平成28年8月10日、19日の2日間、「オープンキャンパス」を実施し、両日合わせて539人の方にご参加いただきました。

8月10日（会場：平成記念会館）には、野口学長の挨拶をはじめ、入試センター長 八木主任教授による大学・入試概要説明、吉村主任教授による模擬授業『脳を救え！脳卒中治療の最前線』、ドクターカー・DMATカーの展示などを実施。また、8月19日（会場：3号館4階3-3講義室）には、大学・入試概要説明、吉矢主任教授による模擬授業『日本のスポーツドクター～今とこれから～』、臨床研修医の講演などを実施し、どのプログラムも盛況でした。

その他、キャンパス見学やシミュレーター体験コーナー、個別相談、在学生との交流コーナーなども好評で、1日を通して兵庫医科大学や医学部の教育内容について理解を深めていただける機会となりました。

キャンパス見学会（解剖実習室）

ドクターカー・DMATカー展示

模擬授業

研修医講演

在学生との交流

関節鏡視下手術シミュレーター体験

～（株）ワールド、（株）ナガサワ文具センターと産学連携～ 神戸発の医療用ウエア「神戸スクラブ」を共同開発

兵庫医療大学は、神戸に本社がある株式会社ワールドと株式会社ナガサワ文具センターの2社と産学連携し、医療用ウエア「神戸スクラブ」を共同開発しました。

WORLD × 学校法人 兵庫医科大学 兵庫医療大学 × ナガサワ文具センター

8月下旬に梅田で開催された「HANSHIN健康メッセ」（P11参照）で、看護学部の学生がスクラブを着用してPR

左から、荻野待子講師（看護学部）、Kobe INK物語開発者の竹内氏（ナガサワ文具センター）、共同開発企画者の澤田氏（ワールド）

「神戸スクラブ」開発の経緯

① 神戸ならではのスクラブ開発のために、ワールドから兵庫医療大学に協力依頼があり、看護学部教員を中心としたプロジェクトチームを結成。また、スクラブの生地色を神戸らしい色にするため、学生を対象にアンケートを実施し、「青」と「赤」に人気があるという結果に。

② 神戸の街をインク色で表現した「Kobe INK物語」開発者のナガサワ文具センターへ協力要請し、50色以上の中から、“港島アイランドブルー”と、神戸のワインをイメージした“神戸ボルドー”の2色の採用が決定。

③ 試作品を手に取り、臨床経験のある教員が医療スタッフの目線で意見を出し、より機能的になるよう提案。何度か会議を重ね、「神戸スクラブ」が完成。

プロジェクト会議で出た意見等（抜粋）

- 洗濯を繰り返しても色が落ちにくいものが良い
- いろいろな体勢をとっても、襟元や袖口から下着が見えないか
- ポケットの大きさ、位置、シルエットへの影響はどうか
- 体型がすっきり見えるよう、ウエストがややシェイプしたXラインが良い

試作品を確認し、改良を提案

本スクラブは、ワールド公式ホームページやナガサワ文具センター本店にて、10月20日から販売予定です。

ささやま 人型ロボットPepper（ペッパー）の「ササローくん」がスタッフの仲間入り

平成28年8月28日、老健施設納涼祭の開会を前に、人型ロボット「Pepper（ペッパー）」がお披露目され、教職員からの応募により「ササローくん」と名付けられました。現在、老人保健施設通所リハビリテーション（デイケア）において、集団リハビリやレクリエーションなどに活用しています。利用者は「ササローくん」に合わせて体を動かしたり、歌ったりして交流を楽しんでおり、概ね好評です。また、その愛らしさは職員にも癒しを提供してくれます。

介護の現場にとってパーソナルロボットが果たす役割は一層大きくなると見込まれるので、利用者の皆さんや職員の役に立つよう、今後も技術開発などさまざまなことに取り組んでいきます。

ササローくんの任命式

利用者とコミュニケーション

ささやま ～踊りに、演奏に、屋台に～ 「納涼祭」を初めて日中に実施

平成28年8月28日、ささやま老人保健施設において17回目の「納涼祭」を開催しました。

これまでは夜の時間帯に開催していた納涼祭ですが、今年は初めて日中に開催。屋台ブースでは、ケーキバイキングや職員の手作りミックスジュースなどを提供しました。また、恒例の篠山産業高校ブラスバンド部による演奏や、デカンショ保存会によるデカンショ踊りが行われ、利用者の皆さんやご家族、職員が一緒に楽しめる機会となりました。

新家理事長も一緒にデカンショ踊り

いろいろなおやつを提供した屋台ブース

■7/19（火）、7/25（月）

「教育力向上に向けて－内部質保証と医学教育－」と題し、鈴木医学教育センター長による全教員対象のFD講演会を開催しました。

■7/29（金）

兵庫医科大学病院12階病棟にて、オペラ歌手で当院の患者さんの飯田美奈子さんが看護部事務員の東さんとミニコンサートを行いました。

■8/3（水）

研究者倫理に関する理解促進のため、教職員を対象にコンプライアンス研修会を実施しました。また公的研究費使用説明会も同日に開催しました。

■8/22（月）～

クロアチアのリエカ大学から3人の学生が来日し、形成外科・麻酔科・疼痛制御科・ICUにて4週間の実習を行いました。

Campus News

学校法人 医療や健康について学べる体験型イベント「なるほど医学体験！ HANSHIN健康メッセ」を大阪・梅田で開催！

学校法人兵庫医科大学（兵庫医科大学病院・兵庫医療大学）は、神戸大学医学部附属病院・阪神電気鉄道株式会社とタッグを組み、平成28年8月27日から29日までの3日間、最新の医療や健康づくりについて楽しく学ぶことで健康意識を高めてもらうことを目的とした体験型イベント「なるほど医学体験！ HANSHIN健康メッセ ～遊んで学んで広がる健康の絆～」をハービスHALL（大阪市北区）で開催しました。

医療総合大学として、それぞれに専門性を生かした様々な催し（下表参照）を行った結果、1万人以上もの人々が来場されるなど大盛況のうちに幕を閉じました。

タイトル	内　容	担　当
医療最前線！	内視鏡治療と脳神経外科のカテーテル治療の体験。医師による実演あり	兵庫医科大学病院 ・内視鏡センター　・脳神経外科
もっと知りたい看護の世界（ワールド）	乳児看護体験や体内組成測定と健康指導、救命救急体験など	兵庫医療大学 看護学部
キッズチャレンジ	看護師（包帯法）の体験	兵庫医療大学 看護学部
カラダとアタマのチェックラリー	握力測定、視空間認知テスト、もぐらたたきゲームなど	兵庫医療大学 リハビリテーション学部
キッズファーマシー!! ～ようこそくすりの世界へ～	軟膏の調剤体験やお薬手帳のカバーづくりなど	兵庫医療大学 薬学部
講演「もっと知りましょう、乳がんのこと」	乳がんの早期発見のために気をつけることや、セルフチェック方法の紹介など	兵庫医科大学病院 乳腺・内分泌外科 三好教授
ツボ押し de 近視予防&目のリラクゼーション	目の養生体操の解説と実体験	中医薬孔子学院 梁副学院長

開催初日、オープニングセレモニーの模様

本物の医師のデモンストレーションに来場者も興奮

救命救急体験に夢中になる子どもたち

兵庫医療大学の学生も大活躍！

大学病院 病院病理部の切出し室と検体処理室を改装

病院病理部の既設切出し室は、ホルマリン管理濃度が規制されている数値に達していませんでした。その対策として7月末までに新規の切出し室を整備し、部屋全体の十分な換気、プッシュプルの切出し台等の局所排気装置設置、光触媒の内装塗装などを実施した結果、ホルマリン環境問題は解消されました。これにより、外科系各医局での固定・切出し業務は病院病理部との共同作業として新切出し室で一括で行われることとなりました。その後、8月末までに既設切出し室を含めた検体処理室を改装し、以前に比べ検体処理業務の環境も改善されました。

改装したエリア

新切出し室

医科大 関西公立私立医科大学・医学部連合&WHO健康開発総合研究センターとの共同研究ワーキンググループを発足

関西公立私立医科大学・医学部連合（※）とWHO健康開発総合研究センターは、平成28年9月5日、質の高い医療を国民、さらには世界の人々に提供することを目的に保健医療政策に共同で取り組むため、ワーキンググループを発足しました。

従来から各大学では独自に海外の大学などと共同研究を進めてきましたが、G7神戸保健大臣会合が開催される機会に関西公立私立医科大学・医学部連合が共同で保健医療政策に取り組むことで、スケールメリットを活かし、健康長寿社会の実現に向けて世界へ貢献していきます。

※兵庫医科大学、京都府立医科大学、関西医科大学、奈良県立医科大学、大阪市立大学、和歌山県立医科大学、大阪医科大学、近畿大学

9月5日に京都で開催された共同記者会見の模様

学校法人 学校法人兵庫医科大学中医薬孔子学院訪問団 北京中医薬大学60周年記念事業に出席

平成28年9月7日から11日にかけて新家理事長、野口兵庫医科大学長、馬場兵庫医療大学長、辻野教授（兵庫医療大学 薬学部）、戴中医薬孔子学院副学院長（兵庫医療大学 薬学部 教授）、梁中医薬孔子学院副学院長（兵庫医科大学 客員教授）、他2人が北京中医薬大学60周年記念事業に出席しました。

記念事業として9月8日、9日に「国際中医薬イノベーション発展論壇」と題した国際シンポジウムが開催され、22の国と地域から約70人、中国国内からも専門家や北京中医薬大学の教職員、学生200人が参加しました。シンポジウムにおいては、新家理事長、辻野教授が発表、野口学長が座長を務めました。また、9月10日には、新キャンパスにて開催された記念式典に出席しました。澄んだ青空の下、屋外で開催された式典には、国内外から3,000人を超す参加者がありました。

国際シンポジウム

北京中医薬大学60周年記念式典に出席

医科大 ネイティブスピーカーを患者役にした「医療英会話研修」を実施

平成28年6月から9月にかけて、5回にわたり「医療英会話研修」（参加無料）を実施しました。

この研修は、昨年に続き高橋優三客員教授による指導の下、SP（＝Simulated Patient：模擬患者）役のネイティブスピーカーに対して、ドクター役の学生が問診や診察を英語で行うもの。将来留学を考えている学生には実践経験に即したトレーニングの機会でもあり、また、ネイティブの英語に触れ、コミュニケーションを図ることで語学力の向上にもつながると好評のため、来年度も引き続き実施する予定です。

ネイティブスピーカー相手に英語で問診する学生

■8/20（土）

医療人育成センターが「薬剤師のためのフィジカルアセスメント研修」を主催し、連携病院の会会員を含めた薬剤師が参加しました。

■8/25（木）

小児科病棟の入院患児を対象にマジックショーを開催。患児たちも参加し、笑顔あふれるイベントとなりました。

■9/1（木）

ささやま医療センターの売店をリニューアルしました。弁当類の充実や、カフェサーバーの設置などで、患者さんや教職員の利便性向上を図っています。

■9/3（土）

医療人育成センター主催で「誤嚥性肺炎の予防・治療に不可欠な口腔ケア・オーラルマネジメント研修」を開催しました。